



館長だより

山形県産業科学館

令和6年10月19日(土)

発行 館長 加藤 智 一

ヒエラルキー

2024.10.17 朝日新聞「声」に、「大学ヒエラルキーなぜ終わらぬ」というタイトルで、ある大学の先生から投稿がありました。その内容はというと、色々な高校を訪問して変わらぬ光景があると。それは、ある予備校が配布する大学偏差値ランキングが掲示されていること。多くの高校生が、この偏差値の枠にとらわれ、重圧に翻弄されているのではないかというご指摘。入試制度も多様化し、進路選択の幅も広がり、情報化社会の進展もあって、現在の高校生には職業に対する見方、偏見も以前ほど偏差値にこだわった進路選択ではなくなったと思いますが、潜在的に「大学ヒエラルキー」的な考えが、あるのも事実。それが全くダメだとも言えない現実があるのもまた事実。なぜならそれが、受験勉強のモチベーションになったり、親の立場にしたら、最も分かりやすい指標であったりする場合があるからです。

もともと「ヒエラルキー」とは、「階級制」や「階層制」という意味です。層になっている組織・仕組みを指す表現で、ピラミッドのような「縦」の構造を「ヒエラルキー」と言います。ピラミッドの上に行くほど権力があり、明確に序列化された仕組みであるのも「ヒエラルキー」の特徴といえるでしょう。人が集まれば自然とヒエラルキーが生まれてしまうのは、人間の性という見方もあります。学校や会社、部活動やサークルなど、人が集まればどんな組織でも自然と「ヒエラルキー」が生まれてしまいます。例えば企業では、「社長」をトップに据え、「専務」「常務」「部長」「一般社員」といった順番で「ヒエラルキー構造」が成されていますし、学校においては、例えば「生徒間ヒエラルキー」と言って、人気者グループや頭の良いグループ、スポーツが得意なグループなどが存在し、すべてにとは言えませんが、それぞれに「ヒエラルキー」が存在することでしょう。また、それらのグループ間にも「ヒエラルキー」が存在するのかもしれませんが、目立つ人が「スクールカースト」の上位に立ち、言いなりにがちな大人しいグループは「ヒエラルキー」の下位に位置することも少なからずあるように思います。そして残念なことですが、いじめの対象となることもあるようです。

これに対して、植物の場合はどうなのでしょう。

植物の特徴は「モジュール構造」にあります。切り離されたとしても、切り離された部分からまた根を生やして生命を維持することができます。独立した小さな群れの集合体のような存在で、その集合体が情報伝達をスムーズに行い環境に適応していきます。ですから「ヒエラルキー構造」は植物界ではうまく機能しません。植物界においては、指令センターをもち、広く分散した組織こそ効率的です。

「ヒエラルキー」は、人間（動物）の社会では、効率的に組織を運営するために、ある意味、ある程度必要なことかもしれません。責任の所在を明確に、秩序（社会体制）を維持していく必要がありますからね。でも、そのために心を病んだり、仲間外れにされたりするのは別問題。自分が最も生きやすい方法は何なのか、「ヒエラルキー構造」の中にあっても、時々「モジュール」のつなぎ方を変えてみて、自分に一番馴染む居場所にたどり着けるまで、気負わず、粘り強く、生きてみることにしましょうか。



スーパームーン 2024.10.17

スーパームーンとは、その年に見える満月のうち「最も大きな満月」のことを言います。国立天文台のサイトによると、月と地球の距離が最も小さくなる時の満月に比べて、月の面積はおよそ30%大きくなるそうです。だからスーパームーンは、普段夜空を見上げたときに見える満月よりも、一回り大きく感じられるはずですが、月の公転軌道はきれいな円を描いているわけではありません。楕円形です。そのため、月と地球の距離は約36万kmから40万kmの間で変化していきます。スーパームーンで月が大きく見えるのは、月と地球の距離が最も縮まったときに起きるからです。